

令和4年度笠岡市子ども議会 回答取組状況

テーマ	質問者	件名	質問	回答	その後の取組状況	担当課
ごみ問題	1 宮野怜	1 私達にもできる自然環境を整えるための活動について	テレビや新聞で環境破壊や生物減少の話題が頻繁に報じられています。笠岡でも魚の減少やカブトガニの生態系への影響が懸念され、将来の水産物不足に不安を感じています。笠岡市ではごみの分別・回収やカブトガニ保護活動を行っています。今後はイベントでのごみ箱増設やポイ捨ての減少、ボランティアによるごみ回収を促進し、減少している生物を保護したいと考えています。協力して自然環境を守り、ポイ捨てを減らす取組に参加したいと思っています。	農林水産省によると、日本の漁業の漁獲量は昭和59年をピークに減少し続けています。この減少の理由は海外での漁獲量の減少や海洋環境の変化などがあります。また、プラスチックごみによる海洋汚染や生態系への影響も深刻な問題となっており、将来的には魚の重量がプラスチックの重量を超えるという予測もあります。笠岡市では、カブトガニ保護の取組が行われており、カブトガニ繁殖地にもプラスチックごみが漂着しています。干潟の減少や海水温上昇などの環境変化がカブトガニの減少にも影響しています。共生社会の実現と自然環境保護のバランスを取るためには、ご家庭でごみを分別し回収し、自然環境に出さないことが重要です。また、清掃活動などでごみを回収することも大切です。笠岡市では、ボランティア清掃活動に協力してくれる方を募集しています。	笠岡市では、海岸や道路の清掃活動にボランティアを募集しています。5月20日には真鍋島と飛島の海岸で109人が、6月3日には神島地区と大島地区の海岸で約300人がカブトガニ保護啓発活動に合わせて清掃活動を行いました。また、6月4日には笠岡湾干拓の道の駅周辺で250人が道路の清掃活動「ごみゼロ運動」を行いました。7月23日には片島での海岸清掃イベント「リフレッシュ瀬戸内海岸クリーン作戦」が予定されています。ぜひ積極的に参加してください。	環境課
ごみ問題	5 山下心愛	5 笠岡市のごみ問題について	道路に落ちているごみにより事故やイメージ悪化が懸念されています。市では清掃用のごみ袋を提供し、回収と処理を行う「道路アダプト事業」なども実施しています。今後は市民への啓発活動や学校での講演会を通じてごみ問題に対する意識変革を図ったり、市内のごみ箱の増設がよいと思います。ただし、最近公共のごみ箱の利用方法に問題があり、家庭ごみの不適切な投棄や分別不守も課題です。市では市民との連携を図りながら解決策を模索しています。未来の笠岡市を美しく保つためには、どんな取組が必要か教えてください。	笠岡市では、道路や周辺にごみが多く落ちている現状が問題視されています。観光名所である笠岡ベイファーム周辺でも不法投棄が目立ち、市長がマレーシアの友好都市を訪れた際には、その都市のきれいな状態に感銘を受けました。笠岡市の取組がその都市の手本となり、中学生たちが帰国後に街をきれいにしようと動き始めました。笠岡市では、割れ窓理論に着目し、道路のごみを常に清掃することでポイ捨てを減らし、市民の意識向上を図りたいと考えています。環境課では学校での出前講座も実施しており、市民への啓発活動や情報発信を通じてごみ問題に取り組んでいます。笠岡市は一層の美化に向け、市民全体で取り組んでいきたいと考えています。	市では、リフューズ（ごみを減らすために受け取らない）、リデュース（必要な物だけを買う）、リユース（何度でも使う）、リサイクル（再生利用する）の4Rの取組を推進し、昨年はごみの分別方法や収集日を知らせるアプリを導入しました。市議会には6回も有料化や配布内容変更の議案を提出しましたが、否決されています。学生も参加できる取組として「プラスチックごみゼロ宣言」や市民参加型の清掃活動も行い、市民の協力を得てごみの減量を目指しています。	環境課
ごみ問題	9 三好冬華	9 海のプラスチックについて	年間800万トンの海洋ごみが発生し、2050年には海がプラスチックごみで溢れる可能性があります。日本からも毎年2～6万トンのプラスチックごみが流出していると推計されています。海洋ごみの問題について、漁師や魚たちが困っているか心配です。スターバックスが全店舗でプラスチックストローの使用を廃止するなどの動きもありますが、私たちの日常生活でもごみを出さず、外で出たごみは持ち帰り、プラスチックごみを適切に分別して資源ごみとして処理することが重要です。私たちは現在の世代だけでなく、次の世代にも美しく豊かな海を保つために協力できるでしょうか。	プラスチックごみによる海洋汚染は世界的な問題であり、G20大阪サミットでも重要なテーマとして議論されました。私たちは便利さを追求する一方で自然環境を破壊してきました。プラスチックはごみの主要な要因であり、製造過程や最終処分にも多くのエネルギーが必要です。プラスチックごみは海洋マイクロプラスチックとなって自然環境を破壊します。しかし、プラスチックの使用を完全に止めることも不便な生活になるため、私たちは環境保護のために努力する覚悟を持つ必要があります。プラスチックの使用を減らし、適切な処理や回収を心がけることが重要です。一人ひとりの小さな取組が大切であり、皆が関心を持ち、周りに広めていくことが求められます。笠岡市内にはスターバックスはありませんが、他の飲食店でもプラスチック製品廃止の取組が広がるように皆で努力しましょう。	海洋プラスチックごみ問題は世界的な課題であり、G7札幌環境相会合や広島サミットでも取り上げられました。身近なプラスチックごみを減らす行動は海洋プラスチックごみの削減につながります。「プラスチックスマート」な取組として、マイバッグの使用やレジ袋の不使用、マイボトルやマイ箸の持参などを実践するよう呼びかけています。広報やウェブサイト、学校や地域の出前講座、FM放送などのメディアを通じて広く啓発を図っています。	環境課
ごみ問題	10 物部鈴音	10 笠岡市にある島の海や海岸が汚いので整備してほしい	笠岡市の島々の海や海岸が汚染されており、それが観光客の減少と商店への来客減少に繋がっています。地域のボランティアは定期的に清掃活動を行っていますが、笠岡市にも海岸清掃や海水浴場の環境整備をお願いしたいです。私たちも参加してきれいな海を維持するために協力したいと考えています。笠岡市の島々が美しくなり、たくさんの人々が海水浴などを楽しむために、私たちも限られた範囲ですが協力できることはありませんか。	笠岡市の島々の海や海岸が汚染されており、観光客減少の原因となっています。環境保護と経済発展をバランスさせる共生社会の実現が求められています。海ごみの大部分は陸地から流れ込んでおり、その回収は困難です。特にプラスチックごみは海洋生物に影響を及ぼす可能性があり、リサイクルやポイ捨ての撲滅が重要です。笠岡市ではプラスチックごみゼロ宣言を行い、清掃活動を実施しています。市民の協力も呼びかけられており、清掃ボランティアへの参加やごみのポイ捨てをしない意識の向上が求められています。市民と市役所が共同して海の美化に取り組むことが重要であり、将来の世代にきれいな海を残すために努力していきます。	大雨後に川から流れたごみが海岸に漂着し、海ごみ問題が発生しています。海ごみを減らすためには、川や海に入る前にしっかりと回収することが重要です。漁師たちも海ごみを問題視し、笠岡市では漁業者との協力で海岸清掃を実施しています。漁師たちは日々の仕事で網に入ったごみを持ち帰り、海をキレイにする取組を行っています。笠岡市では一年を通じて清掃活動を計画し、ボランティアの協力を募集しています。過去には海岸清掃やカブトガニの生息地保護などの活動が行われ、今後もさまざまなイベントが予定されています。参加者を募集しており、積極的な参加を呼びかけています。	環境課

令和4年度笠岡市子ども議会 回答取組状況

テーマ	質問者	件名	質問	回答	その後の取組状況	担当課
道路整備	3 橋本健人	3 より安全なまちづくりについて	毎年、国内では約30万件の交通事故が発生し、約3,000人が犠牲になっています。特に高齢者や若者が巻き込まれる事故が増えており、安全な道路環境の整備が必要です。笠岡市でも危険な箇所の点検や整備は行われていますが、改善の余地があると感じています。見通しの良い道路や明確な車道と歩道の区分、スクールゾーンの明示など、交通安全対策の強化が求められています。私たちも交通ルールを守り、自分たちができる取組を積極的に行いたいと思っています。市民の意見を取り入れて、交通事故のない安心で安全な笠岡市を目指すために協力していただけると嬉しいです。	交通事故は後を絶たず、特に子供や高齢者が巻き込まれるケースが多くなっています。笠岡市では交通安全対策として、学校周辺の点検や安全プログラムの実施、カーブミラーの設置や路面に記号や文字を書くなどの工事を行っています。また、町内会と協力して危険箇所の工事や草刈り、カーブミラーの清掃なども行っています。市民の税金は道路整備や交通安全だけでなく、教育や子育て支援、介護などにも使われています。市民の協力が重要であり、道路アダプト事業への登録や意見の提供を呼びかけています。皆が交通ルールを守り、市役所と市民全員で協力して笠岡市を守っていきましょう。		建設管理課
道路整備	6 藤井千尋	6 私達にもできる暮らしやすいまちづくりのための活動について	最近、私達が歩いている時に、前から自転車が来ても離合できなかつたり「歩道が暗くて危ないな」と思うことがあります。実際に私は前から自転車が来てひかれそうになっていた歩行者を見たことがあります。その時「危ないな」と思いました。そして歩行者と自転車との事故も多発していると聞きます。笠岡市でも市の管理内で市への要望があった場合、予算内で整備を行っています。今後は事故などを減らすために道路やインフラを大切にしていこうと思います。私達の後の世代の人達のためにも協力させていただくことはできないでしょうか。	交通安全は道路利用者と管理者の双方が意識する必要があります。過去の経済・効率重視の政策が地球規模の気候変動や災害を引き起こしました。日本では自転車や歩行者を優先した施策が求められ、再生エネルギーへの転換も進んでいます。道路管理者は脱炭素社会への視点を持ち、歩道や自転車の通行帯の整備を進める必要があります。利用者は交通ルールを守り、危険予測をしながら運転することが重要です。道路はみんなで守るべきであり、市役所と市民全体が協力することが求められます。道路の状況に危険箇所があれば連絡し、住みやすいまちを未来の世代に受け継ぐ責務を果たすべきです。地球環境のために考え行動し、市民と共有することが重要です。	通学路プログラムにおいて、市への要望があった箇所は21か所ありますが、そのうち13か所については既に対策が行われており、残りの箇所についても順次対策が進められる予定です。また、市が管理している道路や河川の清掃を協力して行っている団体は、前年度より4団体増えて111団体となりました。市役所と市民が協力し、素晴らしい街づくりに取り組んでいきましょう。さらに、現在、市ではスマートフォンから道路や河川の異常を通報できるシステムを考えており、皆さんの参加によってできるだけ多くの危険箇所を解消していきたいと考えています。	建設管理課
道路整備	7 中井祐翔	7 笠岡市における交通安全について	私は歩道のない道路を通ることがあり、自動車との距離が近くて危険を感じることがあります。特に子どもや高齢者が通る場合、その道路の通行が困難になる可能性があります。国道などの大きな道路に歩道がない場合は、市役所に歩道の設置や歩行者の通行スペースの確保を要請する必要があります。また、自分たちが歩道を設置してほしい場所を市役所に伝えることや、歩道のない場所を把握しておくことも重要です。笠岡市が安心できる環境を整備するために、歩道の設置の検討をお願いします。	笠岡市では、交通安全対策として、小学校や中学校の通学路の安全点検や交通安全プログラムを実施しています。道路上の安全な通行を確保するために、カーブミラーやガードパイプの設置、速度制限のための路面記号などの工事も行われています。しかし、現在の交通安全対策は十分とは言えず、歩道の設置や自転車優先の道路整備など、より地球環境に配慮した施策が求められています。歩道整備には用地提供などの課題もあり、市民の声を反映しながら幹線道路の整備や国や県への要望も検討しています。		建設管理課
道路整備	8 鞆本大晴	8 生徒が安全に通学できるための活動について	金浦中学校周辺には危険な用水路や川があり、通学時に事故が起こる可能性があります。これは自転車や車の通行にも影響を及ぼし、住みにくさを引き起こしています。市は一部の危険箇所に対策を施していますが、まだ多くの危険な場所が存在しています。私たち自身も安全運転に努めるべきですが、意識だけでは限界があります。住みやすい街を作るためには、市が危険箇所を判断し、設置の優先順位を決めて整備を進めてほしいです。	交通安全は道路利用者と市役所などの管理者の両方が意識する必要があります。戦後の日本は、経済や効率を優先する政策を取り、環境を軽視して便利さを追求しました。しかし、気候変動や温暖化などの大災害が起きています。近年では、自転車や歩行者を優先した施策が求められており、2050年までに脱炭素社会を実現するための政策転換も進んでいます。地球環境を重視した交通手段の利用や道路整備が必要です。利用者は交通ルールを守る意識を持ち、市道の管理者としては脱炭素社会への視点を入れながら歩道や自転車の通行帯を整備していく考えです。また、道路アダプト事業では地域の皆さんに協力をお願いしています。道路はみんなのものであり、市民と市役所が協力して守っていく必要があります。危険箇所や異常な道路状況に気付いた場合は、市役所へ連絡してください。		建設管理課

令和4年度笠岡市子ども議会 回答取組状況

テーマ	質問者	件名	質問	回答	その後の取組状況	担当課
人口問題	4 大隈亜優美	4 笠岡で問題になっている少子高齢化について	笠岡市では、高齢者の増加と若者の流出による少子高齢化が進んでおり、高齢者の外出が減ることで地域の飲食店やスーパーマーケットなどの営業に影響が出る可能性や、交流が制限される懸念があります。笠岡市では高齢者タクシー料金助成事業などを通じて高齢者の外出支援を行っていますが、今後は若者と高齢者が共に住みやすい環境を作るために、地域の交流活動やボランティア活動に積極的に参加し、笠岡市や他の地域の取組についての知識を身につけることが重要です。バランスの取れた活気ある街づくりのために、私たちも協力できる範囲で協力したいと思っています。	笠岡市では、少子高齢化による人口減少を解決するために、企業誘致を重要な施策として推進しています。これにより、安定した収入を得られる働く場所を増やし、若者が笠岡に戻ってきたり、市外から移住してきたりすることを目指しています。働く世代の増加により税収が上がり、子育て支援や教育環境、医療・福祉の充実につながると考えています。さらに、教育改革やインフラ整備、産業振興と観光などの柱を通じて、笠岡市全体の価値を高め、多くの人や事業者に選ばれる活気あるまちを創り出したいとしています。市はAIチャットボットや生活支援サポーターなど、さまざまな取組も行っており、若い人も高齢者も共に地域を盛り上げるために努力しています。	笠岡市の人口構造の課題は、逆三角形の人口ピラミッドである少子高齢化現象です。高齢者が多く、生産年齢の人口が少ないため、持続的な人口構造を目指すために移住定住施策や子育て・教育への投資を重視しています。具体的な取組として、安定した雇用創出を目指し、得た税収を子育てや福祉、教育に充てることで定住を促進します。干拓地内の洋上風力発電設備製造工場の建設など、雇用の増加が見込まれます。結婚・出産・子育てを支援するための各種取組や、高齢者の生活支援サポーターの活動を強化しています。こうした取組により、転入者数が増加しており、今後も精度の高い取組を進め、若者も高齢者もバランスの取れた活気ある笠岡市を目指しています。	協働のまちづくり課
人口問題	13 坂部竜英	13 人口が減少する笠岡について	笠岡市の人口減少は働く場所や若者が集まる施設が不足し、その結果若者の減少と人口減少の連鎖が起きていると見られます。若者が遊べる場所や働く場所が不足しており、市は新卒者を奨励するために奨励金を提供しています。今後は開拓地の拡大や大型店舗（例：イオン）の誘致が重要であり、そうすることで働く場所と若者の憩いの場が生まれると期待されます。また、市のホームページやサイトを活用して笠岡市の魅力を発信するコーナーを作ることも提案されています。これらの取組により、消滅可能性都市から脱却し、若者の増加と街の発展を実現することが望まれています。	笠岡市では働く場所や若者が集まる施設が不足し、若者の減少と連鎖的な人口減少が起きています。市は若者の集まる場所や働く場所の不足を解消するために、企業誘致に力を入れています。500人以上の雇用が生まれ、大型工場や洋上風力発電の基盤工場の建設が進んでいます。これにより、若者が地元に戻って働ける環境を整え、市の発展に貢献してほしいと呼びかけています。市は積極的な情報発信を行い、笠岡市の魅力を広く知らせる取組も行っています。市民の帰郷や定住を促進し、「選ばれるまち」を目指しています。	笠岡市では企業誘致により、新たな工場や設備投資が進み、県営港町工業団地は完売しました。その結果、市内に19社の企業が操業し、500人以上の雇用が生まれ、サプライチェーンの形成や既存企業の設備投資にも波及し、総額750億円以上の投資が行われています。この企業誘致の効果により、固定資産税の増加や市内で働く人々の賃金上昇が実現しました。以前から進めてきた「一丁目一番地は企業誘致、地場産業の育成」施策が社会動態の改善につながり、令和4年度の社会動態は▲122人となり、過去7年間で大幅に改善されました。また、笠岡市の魅力を広く発信する取り組みも行っており、市ホームページや電子サイト、市広報紙で白石踊や地域の良い点を紹介し、市をより広く知ってもらうよう努めています。	企画政策課
人口問題	14 大本夏輝	14 若者を増やすための活動について	笠岡市は現在、少子高齢化の課題に直面しています。高齢者への福祉支援は若者に負担をかけているため、若者の増加が求められています。市は若者を増やすために、笠岡市の魅力を伝えるPR動画の作成などの対策を行っています。また、若者に人気のある場所や食べ物を創出する取組も行われています。個々の市民も、学校でのポスター作成など、自身の力で少しでも協力しようと考えています。若者の増加とともに、笠岡市が発展する場所になることを願っています。	笠岡市は若者の増加を促進するため、地域の魅力を発信する動画制作やポスター作成などの取組を行っています。市は若者の柔軟な発想力を重視し、笠岡の将来像を真剣に考える若者たちに感謝しています。市内の学校では地域学を通じて地域の文化や歴史、自然、生業を再発見し、魅力や強みを発掘する取組が行われています。笠岡には多くの祭りや行事、自然の美しさ、地域特産品などがあり、若者に参加や体験を通じて笠岡を愛着を持ってもらいたいと願っています。将来的には笠岡に戻ってくる若者のために就職先を確保することも重要視されており、新たな工場建設や増設が進められています。市はシティプロモーションとして笠岡の魅力を全国に発信し、若い女性にも注目してもらう取組を行っています。「カサオカスケッチ」プロジェクトを通じて笠岡の魅力を紹介し、フォロワー数を増やしています。さらなる魅力発信のため、地域のすてきなヒト・モノ・コトがあれば、ぜひ教えてください。	笠岡市では、シティプロモーション事業の一環として「カサオカスケッチ」プロジェクトを展開し、特に若い女性をターゲットに笠岡の魅力を発信しています。Instagramやフリーペーパー、YouTube動画などで情報を発信し、笠岡産の米「ひのひかり」を紹介するオンラインイベントやフォトコンテストも行いました。成果として、Instagramのフォロワー数は約9か月で1,000人以上増加し、フォトコンテストには約1,000名の応募がありました。また、「ぼっけーまち会議」という若者グループも活動し、笠岡諸島ツアーや地元イベントへの参加などを通じて笠岡を再認識し、愛着を深める取組を行っています。これらの活動によって、若者が笠岡を好きになり、住み続けたいと思う人が増えていくことを期待しています。	定住促進センター
子育て支援	16 田中重	16 子育てに関して、これからどんな取り組み、私達ができる取組について	夏休み中に児童虐待や育児放棄などの子育て関連の問題がニュースで頻繁に取り上げられており、笠岡市でも同様の事例が起きていることを聞きました。心配なのは、すべての家庭が子育てに対処できているかという点です。笠岡市では子育て支援の給付金や専門職員のサポートがありますが、今後もこの活動を継続し、子育て中の人々や親が安心して子育てできる環境を整える必要があります。この課題にどのように向き合い解決していくか、学生たちにも取り組める活動があるか知りたいです。	宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」は世界的に有名ですが、アメリカではお風呂のシーンが性的虐待を助長するとしてカットされています。笠岡市では子育て支援課が専門職のチームを組み、虐待を含む家庭の支援と早期対応を行っています。児童相談所や警察、学校、保育園とも連携し、必要な場合は子どもの一時保護も行います。同時に、経済的に困っている方や育児に悩む方にも専門職がサポートを提供しています。個々の家庭環境やコミュニケーションの違いもありますが、思いやりのある会話や相手を尊重するコミュニケーションが重要です。学校内でも異なる個性や違いを受け入れ、差別や虐待のない「共生社会」を目指しています。友達の手助けを感じた場合は、いつでも先生や家族、地域の大人に伝えるよう呼びかけられています。	引き続き、社会福祉士、保健師、臨床心理士、看護師、母子自立支援員、家庭相談員などの専門職と連携し、児童相談所、警察、学校、保育園などとも協力しながら、個々のケースに合わせた支援を行っています。早期に支援が必要な家庭を見つけ、虐待などを未然に防ぐ取組も行っています。また、物価高騰の影響を受ける子育て世帯に向けて、18歳未満の子どもを育てる家庭に給付金や小学校の制服購入費の補助を準備しています。	子育て支援課

令和4年度笠岡市子ども議会 回答取組状況

テーマ	質問者	件名	質問	回答	その後の取組状況	担当課
学校関係	11 中村人和	11 人口が増えたら小中一貫校にしなければよいのではないかについて	笠岡市の人口減少に伴い、小中一貫校が検討されていますが、現在の金浦地区は海拔が低く、安全上の懸念があります。また、城見や陶山からの通学にはスクールバスが必要ですが、資金や乗り遅れの問題があります。将来的に不安を感じる人や家族もいるでしょう。人口増加によって小中一貫校を必要としなくなる可能性も考えられます。もし小中一貫校になる場合は、金浦の安全性や通学方法について、市役所で検討し、安心して通学できる環境整備が必要です。人口増加のためには笠岡の魅力を広めるPRや特産品に関する授業などでの啓発活動が重要だと考えています。	笠岡市では、社会の高度情報化やグローバル化に対応するため、小中一貫教育の実施を進めています。連続した教育を通じて、子どもたちが変化に対応し、能力を活かし協力して問題を解決する力を育みます。小中一貫教育校では、小学校と中学校が一体的に整備され、関わり合いや助け合いを通じて思いやりの気持ちや幅広い交友関係が生まれます。安心感を与えるために、中学校の様子を小学生が体験できる学校行事や交流学習も実施します。授業では、小学校と中学校の教職員が連携し、専門的な教育を提供します。地域との交流も重視し、児童生徒だけでなく地域全体で子育てを支える学校を目指しています。安全対策やスクールバスの導入にも取組、子どもたちが安全に学校生活を送れるよう努めます。市は企業誘致や地域経済対策、子育て・福祉の充実など幅広い取組を行い、皆さんが笠岡市で働き続けられる環境を整えます。	令和5年度から、笠岡市では小中一貫教育が本格的に始まりました。6つの中学校ブロックごとに小・中学校が1つの学園として連携し、9年間を通して系統的な教育活動を展開しています。金浦中ブロックでは小・中学校を同じ敷地に建設し、施設一体型の小中一貫教育校を準備中です。この取組により、中学校からの乗り入れ授業や教科担任制が行いやすくなり、学力向上を目指すことができます。また、地域の交流スペースを設けて地域ぐるみで人を育てる学校にし、多様な個性が出会い、友情やリーダーシップなどを養い、社会で活躍できる人材を育成することを願っています。新しい校舎の建設に際しては浸水や土砂災害対策も行い、安全性を確保する取組も行っています。	教育総務課 学校教育課
学校関係	15 遠藤このみ	15 みんなが平等に生活するための活動について	私の学校や笠岡市内の中学校では、学校から家が遠い生徒は自転車で登下校し、近い生徒は歩いています。しかし、このルールは昔の生徒数が多い時のものであり、現在では生徒数が減少しているため、自転車置き場が余っています。そのため、学校から家が近い生徒でも自転車で登下校できるようにしてほしいです。また、私たちは教科書を持たない日は持ってこないようにし、自分たちで工夫していきたいと考えています。実現すれば、自分たちで管理ができるようにしたいです。みんなが平等に生活できる地域を目指して進めてほしいです。	中学校の自転車通学には各学校で決まりがあり、一定基準以上の距離が条件となっています。自転車は使い方によって事故の被害や加害者になる可能性があるため、学校は安全を考慮して許可を出しています。過去のデータでは、中学生の交通事故のほとんどが自転車での登下校時に起きており、事故原因としては並列運転や道路の溝に入るなどが挙げられます。学校は生徒の安全を第一に考えており、自転車通学の許可基準を維持しています。しかし、生徒数の減少に伴い基準を見直し、自転車通学の割合を増やすことも考えられます。学校の決まりについては、先生に意見を言ったり、生徒会で議論する方法があります。学校のルールは時代に合わせて見直すべきものであり、生徒の主体性が求められています。生徒会や対話を通じて、新しいルールを作り上げていくことが重要です。教育委員会も生徒の活動を支援し、各学校で意見を出し合い、現行の決まりを維持するか変えるかを決めてもらいたいと思います。	市内の島しょ部を除く中学校7校のうち、自転車通学を自宅からの距離に関係なく認めている学校は5校で、そのうち2校は昨年度の子ども議会以降に「きまり」を改定しています。残り2校も生徒会と学校が協議中です。校則の改定は、生徒総会で出された意見を生徒会と教職員、PTAで話し合い、時代の変化に応じて柔軟に改定しています。教育委員会としても、皆さんの自主的・主体的な活動を応援しています。 【以前から自転車通学を距離に関係なく認めている学校】 金浦中学校, 新吉中学校, 神島外中学校 【子ども議会以降に改定した学校】 大島中学校, 小北中学校 【協議中の学校】 笠岡東中学校, 笠岡西中学校	学校教育課
離島振興		12-① 笠岡島しょ部の人口問題について	笠岡市の島で人口が減少している状況があります。六島小学校の生徒数はわずか1人であり、神島外中学校に通っている友達も島しょ部からのアクセスの難しさを訴えています。船の数が少なく運賃も高いため、島からの移動が制限されています。市は島に住み続けるための対策として介護施設の配置などを行っていますが、今後も島に住む人々が快適に生活できるようにする必要があります。具体的な対策として、船の運行頻度の増加や運賃割引制度の導入などが考えられます。また、島しょ部の安定した生活を支援する手段として島の情報発信やユーザーなど協力したいです。	笠岡市の島しょ部では、かつて多くの方が住んでいましたが、漁業や石材業の衰退により人口が減少し、船の便数も減少しました。市は高齢者や若者など幅広い世代が長く住めるような対策を行ってきました。船の定期代補助や運賃割引、医療や介護の支援、子育て支援施設の創設などを実施しています。また、観光客の増加やテレワーク、二地域居住などの新たな生活スタイルを取り入れることも検討しています。情報発信も重要であり、若者のセンスやアイデアが求められています。これらの施策を通じて、人口や船の利用者が増え、運賃が下がる正の循環を期待しています。市は引き続き島しょ部の住民が安心して暮らせる環境づくりに努めていきます。	海上の救急車「みたけ」が完成し、訓練を経て7月から運用が始まりました。島しょ部の医療や福祉の体制整備にも力を入れています。市の特色を生かした情報発信を目指し、市ホームページの改修を行い、よりわかりやすく情報提供し、SNSとも連携します。島しょ部の小中学生の交通費補助を拡大し、離島留學も対象に含め、島と陸地の生活の差を少なくする施策も進めています。地域の協力を得て、島しょ部に住む人々が安心して暮らせるように取り組んでいます。	企画政策課
離島振興	12 岡田優志	12-② 島しょ部と陸をつなぐフェリーについて	北木島や白石島などの島には美しい海水浴場がありますが、フェリーの乗り方が分かりづらく、島へのアクセスが難しいと感じています。初めてフェリーに乗る人には、運賃の支払い方法やどこで乗船すればいいのかなどの説明が不足しているため、ハードルが高くなっています。フェリーを利用したいけれど乗り方がわからず躊躇してしまう人もいます。初めて利用する人が安心してフェリーに乗れるような取組が必要です。例えば、フェリーの利用手順を動画で分かりやすくSNSに投稿する方法や、フェリーの時刻表を見やすく改善するなどの施策が考えられます。島へのアクセスが初めての人でも安心してできるように、私たちも協力できることはありますか？	今年の夏、行動制限が緩和されたため多くの方が島しょ部を訪れています。北木島や白石島へのアクセスは伏越港からのフェリーですが、乗り方が分かりづらいため多くの方が乗ることができないのは残念です。今後は、初めて利用する人が安心して乗れるように、フェリー会社と協力して案内表示や時刻表、料金を改善し、スマートフォンでの確認も可能にする予定です。また、是非フェリーに乗って北木島や白石島を訪れていただき、体験や写真を広く共有していただきたいと思います。島しょ部の魅力を多くの人に知ってもらい、情報発信が広まることでさらなるPRにつながると期待しています。若い皆さんの力を島しょ部の発展に活かしていただければ幸いです。	伏越港については、笠岡市観光協会と3社のフェリー会社の運航時刻・料金などを分かりやすく案内する表示の作成を検討しています。笠岡市には伏越港と住吉港があり、白石島や北木島へはフェリーまたは旅客船で行けませんが、高島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島へはフェリーはないため旅客船を利用します。住吉港には笠岡諸島交流センターがあり、切符やお土産の購入、冷暖房完備の快適な待ちスペースが提供されています。新型コロナウイルス感染症の収束後、増加が見込まれる観光客に加え、若い世代も含め多くの方々に笠岡諸島へ訪れてもらいたいと考えており、伏越港と住吉港での乗船をスムーズにするため環境改善に努めています。	企画政策課